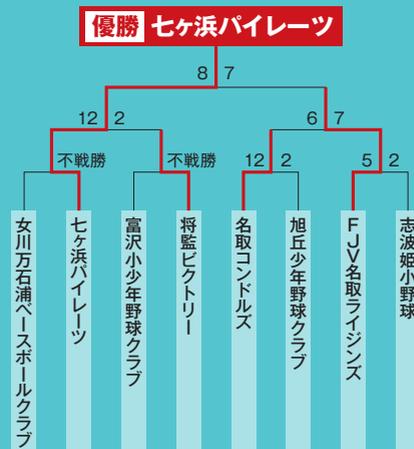


河北新報旗争奪第44回宮城県スポーツ少年団
軟式野球交流大会(ジャンボ大会)

七ヶ浜パイレーツが見事な初優勝

コロナ禍にあって、前年に続き通常開催がなかった河北新報旗争奪県スポーツ少年団軟式野球交流大会。ジャンボ大会の愛称で長年親しまれ、今回で第44回大会(県スポーツ少年団主催、県野球連盟、河北新報社共催)となった。190チームが参加、6月25日には、河南中央公園野球場(石巻市)で準決勝、決勝が行われた。

撮影・文●平川元



決勝 七ヶ浜パイレーツ 8-7 FJV名取ライジンズ



同点となる4点目のホームを踏み、力強く声を上げるFJV名取の菅野



左越え三塁打を打ち、チームに先取点をもたらした七ヶ浜の佐々木。ベース上で喜びを表す



大事な決勝の先発を任されたFJV名取の中川隼夫



1回裏1死一、二塁の場面でしぶとく中前に安打を打ちチャンスを広げたFJV名取の小野野

決勝で顔を合わせたのは、大会前より総合力の高さが注目を集めていた七ヶ浜パイレーツと、例年、安定した強さを誇り、粘りが身上的FJV名取ライジンズ。新チームになってから幾度か練習試合をしたことがあり、いずれも七ヶ浜の勝利に終わっているという情報から、七ヶ浜有利と見る向きは多かった。

実際、初回に先攻の七ヶ浜が4点を挙げると、七ヶ浜強し、のムードが球場全体に漂う。この4点の取り方も素晴らしく、1番の神田暁佑が左越えにいきなり三塁打。すると2番の佐々木士紗も同じく左越え三塁打で神田を本塁へ迎え入れた。さらに、3、4番は打ち取られたものの、5番の菊田球成主将が中前打で1点を加える。続く6番大宰は四球で2死一、二塁。ここで7番佐藤煌鳳朱が右越えに鋭く運び、2人の走者を返す。自身も本塁を狙ったが、ここはFJV名取の連係に

阻まれ、本塁寸前でタッチアウトとなった。4点を一挙に奪われ、意気消沈してもおかしくないところだが、FJV名取は決して勝負を諦めていなかった。むしろ、先制を許し、奮い立ったのかもしれない。すぐさま反撃に出る。その裏、1死で2番の今野想太は中前打で出ると、たちまち二盗を決める。3番大久海陽は四球で続き、4番の小野礼人主将はしぶとく中前に運んだ。1死満塁の大チャンスである。ここで5番菅野蒼介が中越え三塁打で走者一掃、3点を返す。6番の平蒼士朗は右中間を破る二塁打で菅野も本塁を踏み、同点に追い付いた。

この後、流れはFJV名取に。二、三回にも1点ずつを加え、6-4とFJV名取が2点をリードして三回を終える。しかし、地方に勝る七ヶ浜も黙ったままではない。四回に3点を取り7-6と逆転。その裏は、FJV名取が1点を取り再び同点とする。

先制するも追い付かれ、逆転を許し、再び勝ち越すも、また追い付かれる、という展開を七ヶ浜はきつと想定していなかっただろう。それでも勝利への執念の火は消えていなかった。五回表1死三塁の場面で8番横堀ころろが見事、投前にスクイズを決め、8-7と勝ち越し。その後はFJV名取に得点を許さなかった。七ヶ浜にとっては念願の初優勝となった。

勝負強さ見せ 七ヶ浜が競り合い制す